

第3回
だい かい

日本語の教え方

に ほん ご おし かた

伊呂波
いろは

会話
かい わ

日本語国際センター専任講師 長坂水晶
に ほん ご こくさい せんにんこうし なが さか み あき

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供してもらいたい」という要望をいただきます。「日本語の教え方 イロハ」のコーナーでは、日本語国際センターの専任講師が、日本語の教え方を学んだことのない方に、「コースデザイン」や「読解」「会話」「聴解」「評価」などの基本的な教授理論、教授知識をわかりやすく解説します。既に日本語を教えている方も日本語教授法に関する基礎固め、知識の再点検にお役立てください。

学習者の話す力を伸ばすには、どのようなことに気をつけて授業をしたらよいのでしょうか。「話す」とはどういうことなのかを整理した後で、具体的な「会話」授業方法を考えます。

1. 「話す」とは

日常生活において、私たちは次のような流れで話しています。

- ①言いたい内容を考える ⇒ ②どのように言うか考える ⇒ ③実際に言う

外国語で話せるということは、外国語で①⇒②⇒③を自力でできるということです。そのためには学習者自身が言いたい内容や表現を考えるような練習を行う必要があります。

例えば「あなたの部屋には何がありますか」という質問に答える課題では、①⇒②⇒③の流れで学習者自身が話をするようになります。しかし「黒板の前に机があります」など、教室にあるものを使って教師が言い、それを学習者がくりかえすような練習では、学習者は①⇒②⇒③を自力で行っていません。

2. 会話～話し手と聞き手のコミュニケーション～に必要な条件

会話は、話し手と聞き手のコミュニケーションです。このコミュニケーションには四つの特徴があります。

- 1) 目的：話を始めるときには目的があります（例：相手を誘いたい、情報が得たいなど）。
- 2) 情報差：相手が知っていることと自分が知っていることとの間の情報差を埋めるために話をします。

- 3) 選択権：話し手は言いたい内容も表現も自分で考えて話します。
- 4) 反応：話し手は、聞き手の反応（内容を理解しているか、どのような気持ちで聞いているかなど）を確認しながら話します。相手に合わせて自分の対応も変化させていきます。

授業でも、このような会話の四つの特徴を持つ練習を取り入れる必要があります。自分が行っている「会話」の授業をチェックしてみましょう。

会話授業のチェック項目

①	教師より学習者の方が多く話していますか。	
②	学習者が自分で話したい内容を、自分で考えて話していますか。	
③	言いたいことをどのように言うかを、学習者が考えて話していますか。	
④	学習者は会話練習をすることで、お互いの情報差を埋めていますか。	
⑤	相手の反応を見ながら、自分の対応を考える会話練習となっていますか。	
⑥	練習する会話文が、目的がある会話となっていますか。	

3. コミュニケーションに必要な能力

私たちが会話によるコミュニケーションをするためには、文法規則、語彙の知識、正確な発音など「文法能力」だけでなく、次のような能力が必要になります。

- 1) 社会言語能力：相手との関係や場面に応じて、いろいろなルールを守って言語を使用する能力。相手や場面により表現や話題を選ぶことが必要です。また、おじぎや話すときの相手との距離など、適切な非言語行動をとることも、この能力に関わるものです。

2) 談話能力：会話を始めたり、続けたり、終わらせたり、話題を転換したりする、まとまった会話の流れを作る能力のこと。あいつちをうつのも、この能力に関わるものです。

3) ストラテジー能力：コミュニケーションがうまくいかなかったときに、自分の発話を調整したり(説明を加える、母語を使用するなど)、相手に助けを求めたり(聞き返す、自分の理解が正しいか確認するなど)して、コミュニケーションを続ける能力です。

会話の授業をするときにはこれらのコミュニケーション能力を伸ばすような計画を立てることが大切です。

4. 会話の授業を計画する

1から3で見たような特徴を取り入れた授業するにはどうしたらよいでしょうか。ここではロールプレイを取り上げます。ロールプレイは海外の教育現場でも、話す機会を作るための活動として準備がしやすいものです。「友達を誘う・誘いを断る」というロールプレイを例に考えます。

<授業の準備>

●ロールプレイの場面や目的を決める

教科書のモデル会話の場面や、学習者にとって必要な機能などから場面や目的を決める(例：友達を誘う、断る)。役割(友達同士)や状況(友達を映画に誘う/誘いを断る)などを書いたロールカードを用意する。市販の教材を利用・加工してもよい。話す目的や情報差を作る。表現の選択権を学習者にどの程度与えるか決める。

●焦点を当てるコミュニケーション能力を整理しておく

授業で取り上げたい能力を整理しておく。談話能力に関わる表現(例：会話を始める/断る/わびを言って会話を終える)や、社会言語能力に関わるもの(例：相手や状況に合わせて誘い方や断り方を調整する)はロールプレイで取り上げやすい。

<活動の前>

●動機付けや背景知識の活性化

話したいという気持ちにさせ、自分が知っていることを思い出させることで、話す活動がスムーズにできるようになる(例：友達と週末どこへ行くことがあるか、楽しかった思い出は、など)。

<活動の実施>

ロールカードを配りロールプレイをさせる。ペア同士で行ったり、全体の前で何組かが発表したりして、お互いに観察もする。

<活動の後>

●気付いたことを話し合う

難しかったところや間違えたところについて話し合い、必要な表現を確認する。

●評価する

目的が達成できたか(例：友達を誘えたか/上手に断れたか)、相手にどんな印象を与えたか、適切な表現が使えたかなど、教師や学習者同士や自分自身で評価する。必要なら新たに語彙や表現の確認や導入をする。

初級レベルでは、ロールプレイに必要な表現やモデル会話を活動の前に提示したり暗記させたりすることが

ありますが、1で見た①言いたい内容を考える、②どのよう^いに言うか考える^{かんが}の段階を学習者が自力で行うことにはなりません。ですから初級後半以降は、まずは学習者が持っている力で一度ロールプレイを行ってみると、その会話で必要な表現や力を学習者自身で気付くことができます。

ロールプレイの他にもさまざまな活動があります。取り上げやすいコミュニケーション能力と共に活動例を以下に挙げます。

■インタビュー

談話能力……インタビューの開始、終了、次の質問への移行、相手の話への理解や感想を示す

社会言語能力……相手や場面に合わせて、話題や話し方を調整する

ストラテジー能力……相手に詳しく説明してもらったり、自分が理解できるような話し方に変えさせたり、自分の理解を確認したりする

■ディスカッション

談話能力……発言の順番を取ったり渡したり、ディスカッションの流れを作ったりする

社会言語能力……効果的に自分の意見を伝えて相手に説得したり、相手に配慮して反対意見を言ったりする

ストラテジー能力……インタビューと同じ

■スピーチ

談話能力……一定のまとまりをもった発話を開始、展開、終了させる

ストラテジー能力……言葉が思い浮かばない時などに、適当なフィラー表現を使って時間をかせいだり、間を置いたりする

5. 会話の授業で大切なこと

活動を選ぶ時に、伸ばしたい力や学習者のニーズを考慮する必要があります。また、話したいという気持ちや話す必要性を高めるためには、学習者が興味を持つテーマにすることが大切です。教室の外に出かけたり、人を招いたりして活動をする、楽しいだけでなく相手との関係に合わせて話題や表現を選ぶ社会言語能力を磨いたり、現実のコミュニケーションに必要なストラテジー能力を伸ばしたりすることになります。

そして何よりも、学習者が楽しめる雰囲気^{ふんいき}の授業^{じゅうぎょう}をすることが、「会話」の力を伸ばすためには重要^{じゅうよう}でしょう。

参考文献

岡崎 眸・岡崎敏雄(2001)『日本語教育における学習の分析とデザイン』凡人社
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上』ひつじ書房
谷口すみ子(2001)「日本語能力とは何か」『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社